



熱い戦いを繰広げる、高山リーグ2019!

5月から12月にかけて高山リーグの試合が行なわれています。

今回は、5月～10月にかけてリーグ戦を戦い、順位を決めたうえで決勝トーナメント戦を行う形式で高山リーグ2019を進めています。

この形式により、前半のリーグ戦では不本意に終わってしまった下位のチームにも、後半のトーナメント戦を勝ち抜くことで優勝の可能性がでてきます。しかし上位のチームもリーグ戦を戦い抜いた底力もあり、順位順当にトーナメント戦を勝ち進んでいきます。

11月終盤現在では、残すところ決勝の一試合のみです。今年の決勝のカードは、昨年まで2部リーグ制で行われていた、1部リーグ1位の高山クラブ対2部リーグ1位のCROWSによる頂上決戦です。どちらに勝利の女神が微笑むか楽しみです。

本年度も高山リーグ2019は白熱した試合を繰広げています!!!



3×3高山2020開催!

来年の1月から3月にかけて、3人制バスケットボールのリーグ戦として、3×3(スリー・エックス・スリー)高山2020を開催します。

3×3は、来年の東京オリンピック正式種目に採用されるなど、近年注目を集めている種目です。

5人制に比べて、少人数でもプレーできる為、新しいバスケットボールの普及を目指していきます。

編集後記

NBAで開幕戦先発デビューを果たした八村塁選手が、1試合20得点超えを記録するなど、開幕8試合で100得点を突破しました。中学生時代お世話になった坂本コーチの話で、「彼はよく、一番に体育館に来て掃除や準備をしていた。偉いなあと思っていたら、どうやら学

校の掃除とホームルームを先に抜けて来ていたこともあったらしい」と。高校時代3連覇をしたインタビューでは3年間共通して「バスケットは楽しいです」と答えていました。どちらからも「夢中になれる」ということはとても大切なことだと感じました。(S.M)



TAKAYAMA AMATEUR BASKETBALL ASSOCIATION
飛騨高山のバスケットボールを盛り上げよう!
編集・発行：高山市バスケットボール協会 tabba.jp



記事は2ページ目に掲載!



松倉中学校男子バスケットボール部 中体連岐阜県大会 準優勝!

7月に行われた夏の中体連では、松倉中学校男子が県大会準優勝という素晴らしい成績を納め、東海大会に出場しました。今回は「東海大会を終えて」というテーマで生徒の声をお届けします。

東海大会を終えて キャプテン 益田翔悠

毎日必死で練習してきたけど、東海大会の初戦で負けてしまったことがすごく悔しかったです。松倉中は、市大会、地区大会と勝ち上がり県大会の決勝までいきました。決勝では、絶対に優勝したかったけど負けてしまいました。僕は、心の底から悔しくて初めて泣いてしまいました。ただ、東海大会に出場できなかったたくさんの選手達の悔しい気持ちがそこで分かりました。だからこそ東海大会では絶対に勝ちたいと思ったし、負けたことはすごく悔しかったです。結果は残念だったけど、東海大会に出場できたのは、今まで熱心に指導して下さったコーチ、先生方、親さん達が支えてくれたからだと思います。すごく感謝しています。また、この松倉の仲間がいたからこそ、辛いときも一緒に乗り越えることができました。僕はこの経験を生かし、高校でも今まで以上にバスケットボールを頑張りたいです。





祝 高山西高等学校 男子バスケットボール部 令和元年度岐阜県高等学校バスケットボール選手権大会 優勝!

11月に行われた岐阜県高等学校バスケットボール選手権大会において、高山西高校男子が見事“優勝”しました。おめでとうございます。12月23日～29日に東京都の武蔵野の森総合スポーツプラザをメイン会場として行われる「Softbankウィンターカップ2019」に出場します。

雪辱を果たし悲願達成!

高山西高等学校男子バスケットボール部 主将 不破尚生

『雪辱を果たし悲願達成!』

この言葉が一番適していると思っています。今年の私たちのチームこそ1点の重みを感じた世代は、ないのかもしれませんが。夏のインターハイ県予選の決勝では美濃加茂高校と対戦し、リードしながらも最後に逆転され1点差での敗戦でした。そして11月3日のウィンターカップ県予選の決勝では因縁の美濃加茂高校と対戦になりました。会場はほぼアウェイの関市にも関わらず、高山西の応援団はホームと思わせる大声援で、最大9点差のビハインドとなった第4Qは間違いなく私たちの支えになり、結果1点差での勝利を手に入れました。この勝利は先輩や後輩、コーチやバスケットボール関係者、そして家族の協力が得られたものです。入部して3年かかりましたが、全国へ行く道はできました。「三度目の正直」この言葉を実現できて良かったです。本当にありがとうございました。

『飛騨地区からでも全国へ行ける』その証明ができました。これはゴールでなく、これからの通過点だと思っています。飛騨地区の中学生選手が地元で挑戦し、活躍していく時代になってくれたらと願っています。全国大会では自分たちのバスケットがどれだけ通じるか、臆することなくチャレンジしていきたいと思います。



中学生を対象とした大阪体育大学クリニック

8月13日に久々野体育館にて、大阪体育大学のコーチ、学生選手が中学1、2年生の男子生徒を対象にしたクリニックを開催してくださいました。多くの生徒が参加し、楽しそうにバスケットに取り組んでいました。参加した生徒の声をお届けします。



2年生徒 感想

今回大阪体育大学の方がいろいろな練習をしてくれました。ボールを持ってチームごとで鬼ごっこをする練習など、初めてやる練習もありました。この練習では、味方に「正確に」「素早い」パスをすること、敵をコート隅に追い詰めることで勝つことができました。全体を通して、ドリブルをする時には、手についている時間を長くして相手に取られないようにするために、「強くつくこと」が大切だと分かりました。これからの練習でも意識して、うまくなりたいです。

1年生徒 感想

大阪体育大学クリニックの練習でいろいろなことをしました。特に頭に残っている練習は、4箇所に分かれて順にドリブル、パス、シュート、ステップをする練習です、ドリブルなどの時にやさしくアドバイスをしてくださり、できるようになって嬉しかったです。